

＜関係法令等＞
 ・日本国憲法
 ・教育基本法
 ・学習指導要領等

各教科の指導の重点
(国語) 音読や漢字の繰り返し練習や読書指導を充実させるとともに、自分の考えを伝え合う力を高めるための指導の充実を図る。
(社会) 地域社会から学ぶ体験的な学習や問題解決的な学習を充実させ、学習内容の定着を図る。
(算数) 「思考力・表現力を高める指導の工夫～算数科、図画工作科、音楽科を通して～」を研究主題に掲げ、校内研究に取り組む。
(理科) 観察・実験に重点をおき、主体的な学習を通して、基礎基本の定着を図る。
(生活) 具体的な活動や体験、他との関わりを通して、生活上必要な習慣や技能を身に付け、自立への基礎を養う。
(音楽) さまざまな音楽活動から基礎的な知識・技能を身に付け、豊かな情操を培う。
(図画工作) 造形的な創造活動の基礎的な能力を育てる。
(家庭) 個に応じた指導を工夫し、日常生活に必要な基礎基本の力の定着を図る。
(体育) 運動を楽しむ活動やめあて達成に向け友達と関わりながら工夫して運動に取り組む活動を充実させ、運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、体力の向上を図る。
(外国語) 日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しむことができるようにする。外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどをすすんで伝え合うことができる基礎的な力を養う。

総合的な学習の時間の指導の重点
 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。
 また、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、共同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

外国語活動の指導の重点
 ・言語や文化について体験的に理解を深める。
 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
 ・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことができるようにする。

＜学校教育目標＞ **けやきの子**
 かしこく やさしく たくましく
 社会に貢献しようとする高い志をもち、知恵と実践力を備え、他者と協働しながら、価値を創造していける自立した人間を育てるために、小学校の発達段階に応じた教育の役割を果たしていく。

学校経営方針 (学力向上にかかわる要点)
確かな学力をつける学校
授業力を高め合う学校

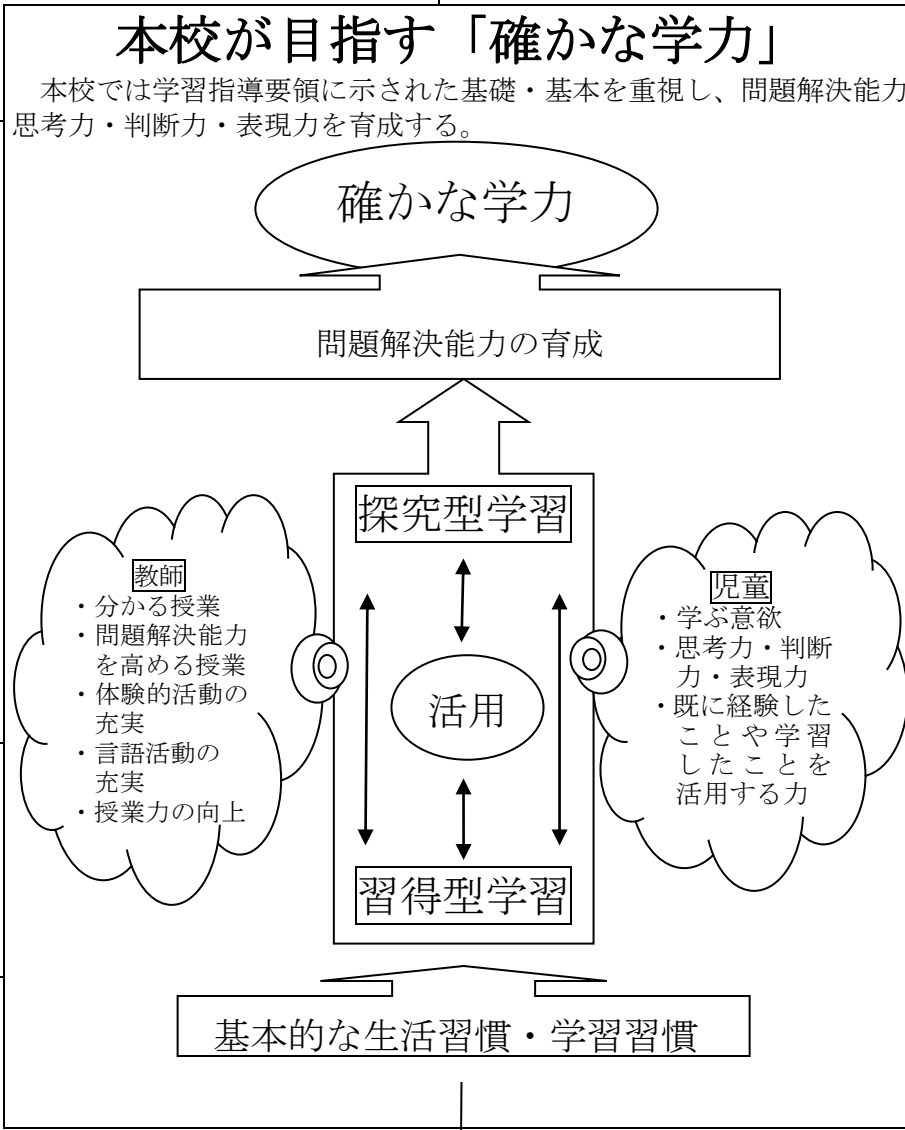
- ・学力を基礎的な知識・技能と狭く捉えるのではなく、思考力・判断力・表現力、そして学ぶ意欲などを含めて広く捉え、学力の向上に努める。思考力・表現力の育成を目指し、活用・探究的な活動や言語活動の充実に重点をおき、その教科を学ぶ意義を明確にし、既習学習との関連、実生活や他の学習との関連、上級学校での学習との関連を重視していく。
- ・授業で育てたい力、教えることと考えさせることを明確にして授業に臨み、児童の学習意欲を喚起し、考える楽しさ・分かる喜びを児童に感得させる。問題解決能力を高める授業を心がける。

＜期待する児童像＞
 自分の考えをもつ子
 分かりやすく話そうとする子
 考えの良さを認めあえる子

特別の教科 道徳の指導の重点
 道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

生活指導の指導の重点

- ・児童一人一人を理解し、自主的な行動をとれる児童を育てる。
- ・日常生活の基本行動の仕方を教え望ましい生活習慣を育てる。
- ・生命尊重の心を養い、すすんで健康安全に心を配る児童を育てる。
- ・児童相互の人権を尊重し合う人間関係の育成に努める。
- ・児童の個性や能力の伸長を図り自己実現が図れるよう支援する。



特別活動の指導の重点

- ・児童の人間関係を育み、友達と助け合う心と豊かな心を育てるため、異年齢集団活動の充実に努める。
- ・児童による自発的、積極的な取組を通して、一人一人の児童に自分への自信をもたせ、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を身に付けられるように指導する。

キャリア教育の指導の重点

- ・自分や友達によさに気付き、得意分野を伸ばし学び合い助け合おうとする態度を育てる。
- ・将来への夢や希望をふくらませながら、学ぶことや働くことの意義を理解できるようにする。
- ・目標に向かって努力し、自ら課題を見つけ自分でやりとげようとする態度を育てる。

本校の授業改善に向けた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> ・体験的・問題解決的な学習を重視する。 ・習熟度別指導や主体的・協働的な学びを生み出す指導の工夫をする。 ・発展的な学習、補充的な学習をする。 ・個に応じた指導の工夫をする。 ・パソコン、実物投影機等のICTを活用する。 ・言語活動の充実を図る指導を工夫する。 ・児童による評価および教員による自己評価を活用し指導の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週3回のモジュール学習の時間 (15分間) を活用して、漢字の学習を行う。 ・固定時間割を調整して習熟度別指導の時間を確保できる指導体制をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「思考力・表現力を高める指導の工夫～算数科、外国語活動・外国語科を通して～」を研究主題に設定し、授業研究や研修、小中一貫の取組を通して、指導の工夫を追究していく。 ・計画的に授業研究、校内研修を行い、指導の工夫等を検証していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週ごとの指導計画の活用を通して日々の授業改善に努める。 ・座席表などを活用して一人一人のよさや学習状況を見取る。 ・評価規準を活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜授業公開や道徳授業地区公開講座を実施する。 ・保護者による読み聞かせや未来塾など、ゲストティーチャーとして地域人材を活用する。 ・花咲かせ隊の協力により菊作りを行う。 ・週5日、学校応援団(がお小広場)を実施する。 ・保護者・地域による評価を活用し、指導の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携クリエイターを中心に、小中一貫教育の充実を図る。 ・外国語活動、外国語、英語の小中の円滑な接続を目指す。 ・過去に作成した、国語、算数・数学、理科の課題改善カリキュラムの活用を図り、授業改善を行っていく。